

ビオトープ・イタンキのホタルについて

北海道に生息するホタルはヘイケボタルです。ホタルの卵はコケの間などに産みつけられ、孵化した幼虫は長さが2～3ミリですが、自力で歩いて水に入ります。ヒラマキミズマイマイやモノアラガイなどを食べて2～3年、5回脱皮して6令幼虫になると上陸し、土やコケの間に室(蛹部屋)をつくりサナギになります。

成虫は10ミリ前後、一部5令幼虫から羽化した7ミリ前後の成虫も見られます。♂♀で異なる発光パターンで交信し、出会います。成虫は水分を摂るだけで何も食べません。活発に活動するのは一週間程度で、7月の下旬が発生のピークです。

古い話を聞くと「室蘭はいたるところにホタルがいた」そうです。かつて白鳥湾と呼ばれた内湾に面して干潟や湿地が広がっていた室蘭の地形を想えば当然のことです。しかし、経済の高度成長の時代を経て、私達はホタルの生息できる環境を失ってきました。石川町の一部を除いて、室蘭はホタルの「絶滅地域」です。



モノアラガイを食べるヘイケボタルの幼虫



発光するヘイケボタル

ビオトープ・イタンキでは、活動の当初から、「ホタルの復活」は大きな目標でした。1999年に白老で行われた北海道ホタルの会のシンポジウム「ホタル自然復帰研究交流大会」に参加するなどして知見を深め、タネ親の導入元について検討しました。「室蘭の自然再生」という目的から、安易な「購入」を避け、近隣からの導入を目指しました。虎杖浜地区の野生のヘイケボタルをタネ親として2000年以來飼育ケースでの累代飼育を行い、増殖をはかって放流できる環境の実現に備えました。

ビオトープの造成が可能となり、2006年と2007年に合計1280匹の幼虫をビオトープに放流しました。その後は、登別市内からも野生のヘイケボタルを導入して定着・繁殖の推移を観察してきました。毎年、7月の下旬の発生ピークを迎える頃に観察会を開催しています。

イタンキは多くの人が入り出す場所であり、ホタルは逃げることを知らない虫です。そっと見守る心で大切にしたいものです。

NPO 法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭

室蘭市輪西町2丁目12-5 理事長 大西 勲 TEL 090-8637-8725

e-mail: ohie_biotop_itanki@yahoo.co.jp <http://biotop-itanki.jpn.org/>

